

学校法人電波学園
愛知工科大学自動車短期大学
機関別評価結果

平成 28 年 3 月 10 日
一般財団法人短期大学基準協会

愛知工科大学自動車短期大学の概要

設置者 学校法人 電波学園
理事長 小川 明治
学 長 安田 孝志
A L O 高田 富男
開設年月日 昭和 62 年 4 月 1 日
所在地 愛知県蒲郡市西迫町馬乗 50-2

設置学科及び入学定員（募集停止を除く）

学科	専攻	入学定員
自動車工業学科		180
	合計	180

専攻科及び入学定員（募集停止を除く）

なし

通信教育及び入学定員（募集停止を除く）

なし

機関別評価結果

愛知工科大学自動車短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていることから、平成 28 年 3 月 10 日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成 26 年 6 月 12 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次のとおりである。

建学の精神は、「社会から喜ばれる知識と技術を持ち歓迎される人柄を兼ね備えた人材を育成し英知と勤勉な国民性を高め科学技術、文化の発展に貢献する」とし、学生便覧やウェブサイト等で学内外に公表されている。

教育目的・目標は、自動車工業学科単独の短期大学として、「二級自動車整備士の資格を有し、確かな基礎能力と幅広い教養を持ち、多様な業種に対応できる人材の養成を行う」とし、ウェブサイトや学生便覧等で学内外に公表している。

学習成果の一つは二級自動車整備士資格取得であり、資格取得率の結果は毎年点検・評価されるとともに、ウェブサイトや大学案内等で公表されている。

関係法令を順守して教育に当たるとともに授業評価アンケートなどを通して授業改善に取り組み、教育の質保証に努めている。

自己点検・評価活動については、自己点検・評価委員会規程、評価企画 IR 室規程等に基づき行われており、自己点検・評価報告書を定期的に発行し公表している。平成 22 年度には、広島国際学院大学自動車短期大学部と短期大学間相互評価を行っている。

教育課程は体系的に編成され、学位授与の方針にも対応している。また、取得可能な免許・資格のために自主学習ができる独自の e ラーニングシステムが準備され、学生のニーズに込んでいる。成績評価については、基準に沿って厳格に適用しており、シラバスには必要な項目が明示されている。

入学者受け入れの方針は、学科の学習成果に対応しており、募集要項やウェブサイト等に明示している。

進路先企業を対象に「卒業生の就労実態等に関する調査」を実施し、学習成果の有用性を確認するとともに、教育課程の見直しに生かされている。

学習支援として、クラス担任制を設けて、修学、学生生活などの相談に応じている。また、学内に「ご意見・ご提案箱」を設置し、学生の意見等を汲み上げている。教育懇談会を開催し保護者の意見を聴くなど学生指導に生かしている。

学生生活指導委員会、クラス担任、キャリア支援課が緊密に連携して就職支援を行って

いる。福利厚生面では、キャンパス・アメニティ等が整備され、経済的支援として、各種の奨学金制度や授業料免除制度などを設けている。学生の社会貢献活動については、「社会貢献活動」の科目の単位認定やボランティア活動、課外活動、資格取得、各種講座の受講、インターンシップ、大学祭の運営などに積極的に取り組んだ学生を表彰する制度を設け支援している。

教員組織は、短期大学設置基準を充足し、教育課程編成・実施の方針に基づき教員を配置している。教員は紀要等の発表機会を生かし、研究成果を発表しており、FD 活動にも積極的に取り組んでいる。

関係諸規程に基づいて事務組織の責任体制は確立されており、SD 活動は、規程に基づき多彩に行われ、事務職員の能力の向上や専門性の向上に努めている。

校地・校舎面積共に短期大学設置基準を満たし、適切な面積の体育館や運動場を有している。併設大学と共用の図書館は適切な面積を有し、閲覧室も整備されている。

火災・地震等の防災対策については、危機管理規程、防災管理規程に基づいて対応しており、防災教育・訓練や安全対策を講じている。情報ネットワークは併設大学のメディア基盤センターが中心となって技術支援、施設の設置、維持管理等を行っている。

自動車整備にかかわる最先端設備を導入し、排気ガス屋外排出システムの採用等安全で快適な実習環境を整備している。ネットワーク化された自動車検査設備やパソコンを利用した故障診断システムによって学生の学習効果も向上している。

学校法人全体としては、余裕資金があり健全な状態であるが、短期大学部門の財務状況は、過去3年間で支出超過が続いている。

学校法人の管理運営は、理事長の強いリーダーシップの下で適切に行われている。学長は、建学の精神に基づき短期大学のあるべき姿を将来像として描き、教授会をはじめ各種委員会等を組織的に運営している。

監事は、学校法人の業務及び財産の状況を監査し、適切に業務を行っており、理事会・評議員会に毎回出席し、必要に応じて意見を述べている。評議員会は寄附行為に基づき、理事定数の2倍を超える評議員で構成されており、理事長の諮問機関として適切に運営されている。事業計画及び予算は、適切に決定され執行されている。教育情報、財務情報は、ウェブサイトや広報誌などで公表・公開されている。

2. 三つの意見

本協会の評価のねらいは、短期大学教育の継続的な質保証を図り、短期大学の主体的な改革・改善を支援することにある。そのため、本協会では、短期大学評価基準に従って判定される前述の「機関別評価結果」や後述の「基準別評価結果」に加えて、当該短期大学の個性を尊重し、その向上・充実を図る観点から以下の見解を持つ。

(1) 特に優れた試みと評価できる事項

本協会は当該短期大学の以下の事項について、高等教育機関として短期大学が有すべき水準に照らし、優れた成果をあげている試みや特長的な試みと考える。

基準Ⅰ 建学の精神と教育の効果

[テーマ A 建学の精神]

- 建学の精神は、各行事の中で学生に周知されるとともに、各教室に掲示されている。また、当該短期大学で学ぶための心構えとして、「生活五訓」、「学習五訓」、「実習五訓」という分かりやすい形で学生に十分浸透し、学生生活の基礎となっている。

[テーマ B 教育の効果]

- 学生の学習支援・生活支援のために、クラス担任制を採り、毎日の授業等を振り返る学級日誌を当番制で作成しており、学生とクラス担任間で意見交換が行われている。これにより学習成果の獲得や学生支援の充実について、日常的な改善が積み上げられている。

基準Ⅱ 教育課程と学生支援

[テーマ A 教育課程]

- 自動車整備技能登録試験の合格率、進路（就職・進学）決定率は共にほぼ 100%であり、就職者の多くが自動車整備業界で活躍している。学習成果が社会的にみて有用であり、学生が学習成果を達成することができる教育を行っている。

[テーマ B 学生支援]

- ネットワーク環境を生かした独自の e ラーニングシステム「コーカくん」を開発し、不断に改善を進め、多くの学生が利用し、資格取得の大きな支援となっている。

基準Ⅲ 教育資源と財的資源

[テーマ A 人的資源]

- 災害発生に備え、教職員、学生にそれぞれ「防災マニュアル」、「防災カード」を配付し、緊急時の体制を整備するとともに、定期的な防災訓練等を実施している。

[テーマ C 技術的資源をはじめとするその他の教育資源]

- 自動車整備にかかわる最先端設備を導入し、安全で快適な実習環境を整備し、ネットワーク化された自動車検査設備やパソコンを利用した故障診断システムを使うことで学習効果が向上している。最新の設備を積極的に宣伝し、学生募集の面でも効果をあげている。

(2) 向上・充実のための課題

本協会は以下に示す事項について、当該短期大学が改善を図り、その教育研究活動などの更なる向上・充実に努めることを期待する。なお、本欄の記載事項は、各基準の評価結果（合・否）と連動するものではない。

基準Ⅱ 教育課程と学生支援

[テーマ A 教育課程]

- シラバスに必要な項目が明示されているが、到達目標が具体性に欠ける科目もあり、より具体化し、学生にとって分かりやすく記述することが望まれる。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

以下に示す事項は、問題・課題などが深刻であり、速やかな対応が望まれる。

なし

3. 基準別評価結果

以下に、各基準の評価結果（合・否）及び当該基準を合又は否と判定するに至った事由を示す。

基準	評価結果
基準Ⅰ 建学の精神と教育の効果	合
基準Ⅱ 教育課程と学生支援	合
基準Ⅲ 教育資源と財的資源	合
基準Ⅳ リーダーシップとガバナンス	合

各基準の評価

基準Ⅰ 建学の精神と教育の効果

建学の精神は、「社会から喜ばれる知識と技術を持ち歓迎される人柄を兼ね備えた人材を育成し英知と勤勉な国民性を高め科学技術、文化の発展に貢献する」という文言によって、明確に打ち出されている。建学の精神は、踏襲され、学生便覧やウェブサイト等で学内外に公表されており、キャンパス内建物全室に掲げられている。また、建学の精神は、「生活五訓」、「学習五訓」、「実習五訓」として、当該短期大学で学ぶための心構えとして分かりやすく提示されている。

教育目的・目標は、自動車工業学科単独の短期大学として、「二級自動車整備士の資格を有し、確かな基礎能力と幅広い教養を持ち、多様な業種に対応できる人材の養成を行う」と学生便覧に明記し、ウェブサイト等で学内外に公表している。二級自動車整備士に必要な自動車工学、自動車整備に関する知識・技術の習得と、社会人、職業人として必要な教養の習得や人格の形成という学習成果を示している。

学習成果の一つである二級自動車整備士資格は資格取得率として測定可能であり、結果は毎年点検・評価されている。また、ウェブサイトや大学案内等で公表され、次年度以降の改善に生かされている。

教育の質の保証については、学校教育法や短期大学設置基準、国土交通省の定める関係法令を順守して教育に当たっている。学習成果の査定については、「授業評価アンケート」に基づいた授業改善活動の評価と組み合わせて行っており、さらに、教員個人の授業の改善を目的とし、授業のビデオ撮影による授業の自己点検・改善を実施するなど、PDCAサイクルに基づき改善活動に取り組んでいる。

自己点検・評価活動については、自己点検・評価委員会規程、評価企画 IR 室規程等を整備して、学長直轄の組織と位置付けている。自己点検・評価報告書は定期的に発行し公表している。平成 22 年度には、広島国際学院大学自動車短期大学部と短期大学間相互評価を行っている。

基準Ⅱ 教育課程と学生支援

学位授与の方針は、建学の精神に基づき、教育目標の下、二級自動車整備士の国家資格の取得を目指して、知識・技術を修得することを学習成果として示しており、ウェブサイ

ト等で学内外に表明している。

教育課程は、学位授与の方針に沿って、基礎・教養科目、専門科目により編成されている。人間形成の面での学習成果の測定の試みとして「成長ふりかえりシート」を使ったアンケート調査が始められているが、データの蓄積と評価項目の見直し、評価方法の改善を図ることが望ましい。

成績評価については、シラバスで定められた成績評価方法に沿って厳格に適用されている。外国語教育においては、単位認定の基準に実用英語技能検定試験、TOEFL や TOEIC の基準点を定め、数値的に評価可能で学生に分かりやすいものとしている。なお、シラバスには必要な項目が明示されているが、到達目標が具体的でないものがあり、到達度を測定可能にするよう改善を進められたい。

また、学生による授業評価を各学期末に実施しており、結果は次年度以降の授業改善に生かされている。授業評価結果は、教員と学科長で検討されているが、学生への公表はされておらず、今後の検討課題である。

入学者受け入れの方針は、学科の学習成果に対応し、学生募集要項やウェブサイト等で明確に示している。また、入学前の学習成果の把握・評価については調査書や面接、推薦書等で確認している。

学習成果としての自動車整備技能登録試験の合格率、進路（就職・進学）決定率は高く、整備士資格を有する人材を地域企業に供給することで地域貢献を果たしている。

進路先企業を対象に「卒業生の就労実態等に関する調査」を実施し、自動車整備技能登録試験の合格率で学習成果の有用性を確認するとともに、教育課程の見直しに生かされている。その中で「学生を採用した理由」、「卒業生に対する満足度」、「教育活動・学生支援に抱くイメージ」について具体的に分析して、その結果を授業やキャリア支援に役立てている。

施設設備や技術的資源が充実し、自動車整備にかかわる資料が整備されており、自動車整備士資格取得のために、独自のeラーニングシステム「コーカくん」を開発し、学生の学習支援に大きな役割を果たしている。

クラス担任制を採るとともに、オフィス・アワーを設けて各種相談に対応し、学生相談室には臨床心理士を常駐させるなど学生の支援を行っている。国際交流委員会は、併設大学と合同で組織して活動している。

学生生活指導委員会、クラス担任、キャリア支援課が緊密に連携して就職支援を行っている。自動車整備関連業界の企業と連携する「愛知工科大学技術後援会」（愛技会）を組織し、学生の就職支援に大きな役割を果たしている。編入学についても併設大学の協力を得て指導している。また、学生が主体的に参画するクラブ、同好会活動への支援も整えている。学生の福利厚生面では、キャンパス・アメニティも含めて学生の宿舎や通学生の駐車場の整備がなされている。経済的支援については、各種の奨学金制度や授業料免除制度などを設けている。

基準Ⅲ 教育資源と財的資源

教員組織及び専任教員は、短期大学設置基準を充足している。専任教員の資格と資質は

適正であり、教員の採用、昇任は「教育職員任用及び昇任規程」にのっとり行われている。

研究活動については、「電波学園大学教員研究費規程」、「電波学園大学教育改革・プロジェクト教育研究費規程」等が設けられ研究の促進が図られている。専任教員は、紀要、研究報告誌等の発表機会を生かし、研究成果を発表している。なお、専任教員の研究実績に偏りがみられ、外部研究費の獲得も含め、改善に努められたい。

FD 活動については、規程に基づき FD 研修会や FD セミナーを行っており、特に、専門分野ごとの分科会は、関連科目の連携を深めてより効果的な学習成果が得られるよう、研修活動に取り組んでいる。

事務組織は、関係諸規程に基づいて責任体制が確立され、組織・事務分掌が明示されている。SD 活動は、規程に基づき多彩な活動を行っており、事務職員の能力の向上や専門性の向上に努めている。

校地・校舎は短期大学設置基準を満たし、適切な面積の体育館や運動場も有している。併設大学と共用の図書館は適切な面積を有し、十分な広さの閲覧室が設けられているが、学生の学習支援の面から図書の変更の充実に努められたい。

固定資産管理規程等は整備され、備品台帳等を整備して維持・管理している。防災については、大規模地震等の災害発生に備え、「防災マニュアル」、「防災カード」が教職員、学生に配布されている。緊急時体制が整備され、定期的な防災訓練等も実施されている。コンピュータのセキュリティ対策、情報ネットワークの技術支援、施設の設置・維持管理等は、併設大学と共同のメディア基盤センターが中心となり対応している。省エネルギー・省資源対策については、節電の諸対策やソーラー発電の活用、LED の導入、バイオ燃料の活用を行い、地球環境保全への取り組みも行っている。

自動車整備にかかわる最先端設備を導入し、排気ガス屋外排出システムの採用等安全で快適な実習環境を整備し、ネットワーク化された自動車検査設備やパソコンを利用した故障診断システムを使うことで学生の学習効果も向上している。

学校法人全体として、帰属収支差額は収入超過で健全に推移している。短期大学部門は、過去 3 年間大きく支出超過の状態にある。学生募集を喫緊の課題と認識し、対策が講じられ、平成 27 年度には入学定員を充足している。当該短期大学が、将来にわたって財務の健全化を維持していくために、課題としている定員確保策や人件費比率の見直しを実行し、帰属収支の均衡に取り組むことが求められる。

基準Ⅳ リーダーシップとガバナンス

理事長は、寄附行為や理事会業務規則に基づいて、学校法人の将来を見通し、適切なリーダーシップを発揮している。特に、学校法人全体での学生募集目標を明確にし、経営の見通しを学校法人全体に周知し、進むべき方向性を明確に示している。

理事会及び評議員会は、過去に緊急を要する案件で持ち回り審議を行った例があったが、それ以降は、適切に運営している。

学長は、「学長候補者選考規程」により選出されている。学長は、併設大学と協調・協力しながらリーダーシップを発揮し、建学の精神に基づき短期大学のあるべき姿を将来像として描き、教授会をはじめ各種委員会等を組織的に運営している。

ただし、報告書に記載された構成図では、学長、教授会、自己点検・評価委員会と各委員会の関係が分かりづらいため、分かりやすい形で整理することが望まれる。

監事は、学校法人の業務・財産の状況を適切に監査し、理事会・評議員会に毎回出席し、必要に応じて意見を述べている。また、会計年度ごとに監査報告書を作成し、当該会計年度終了後 2 か月以内に理事会、評議員会に提出している。

評議員会は、寄附行為に基づき理事定数の 2 倍を超える評議員で構成されている。評議員会は、理事長の諮問機関として適切に運営されている。

平成 22 年度に策定された中期目標・計画に基づいて、年度ごとに事業計画、予算は、経理規程に従って適切に執行されている。執行状況は、内部監査と公認会計士による監査によって適切に確認されている。

教育情報は、ウェブサイトで公表されており、財務情報はウェブサイト、広報誌への掲載、学内掲示板への掲示という形で公開されている。

選択的評価結果

本協会は、短期大学の個性を伸長させることを目的として、「教養教育の取り組み」、「職業教育の取り組み」、「地域貢献の取り組み」という三つの選択的評価基準を設けている。これらの三つの取り組みは4基準にも含まれているが、各短期大学の取り組みの特色がより鮮明になるよう、4基準とは別に設定した。

選択的評価は個々の短期大学の希望に応じて実施し、課外活動も含め、それぞれの独自性が一層発揮されるよう当該短期大学の取り組みの達成状況等について評価を行った。

地域貢献の取り組みについて

総評

当該短期大学は、地元蒲郡市・幸田町で唯一の短期大学として、併設大学と共同し、多大な地域貢献を行っている。

蒲郡市とは「連携と協力に関する協定」と「災害時における施設の利用に関する協定」、また、幸田町とは「連携と協力に関する協定」を締結し、地域社会に向けた公開講座を実施している。特に、蒲郡市との「災害時における施設の利用に関する協定」は、地区の地震や津波等の被害が想定されていることに鑑み、災害時の地域避難場所として指定され、地域に寄与する取り組みである。

「がまごおり産学官ネットワーク会議」のメンバーとして、地域振興と地域課題の解決にも取り組んでいる。また、本来の目的である自動車技術者の養成の面でも、愛知県全域に卒業生を送り出し、地域企業に貢献するとともに、受け入れ企業を会員とした「愛知工科大学技術後援会」（愛技会）を組織し、企業からの要望を受け入れる努力をしている。

教職員・学生のボランティア活動には大きな期待が寄せられるなか、学生は、学位取得と国家資格取得等に取り組みつつ、積極的に地域の要望に応え、地域に貢献している。

社会貢献活動を単位認定する規程や表彰制度を設けるなど、学生の社会的活動を推奨する体制が整備されている。今後も地域貢献活動に積極的に取り組み、学生が積極的に参加するボランティア活動への更なる組織的な支援が期待される。

併設大学との共催という形は多いが、公開講座等の実施を通して積極的に地域貢献に取り組んでいる。また、行政との連携、さらには「がまごおり産学官ネットワーク会議」等を通じて活発な交流活動を行っている。

当該短期大学の特色が表れている取り組み

- 当該短期大学は、二級自動車整備士資格をもつ技術者養成を通して、自動車産業が中心の三河地区の発展に大いに寄与している。また、高台にある当該短期大学及び併設大学と蒲郡市は、災害時における避難所としての協定を結び地域住民の生命の安全等に大きな力となっている。
- 社会貢献活動を単位認定する規程や表彰制度を設けるなど、学生の社会的活動を推奨する体制が整備され、ボランティア活動が勧められている。

- こども理科教室や少年少女発明クラブ等を主宰し実施している。これらの取り組みは、当該短期大学の認知度向上につながるだけでなく、若年層の早い段階での理数系離れを防ぎ、ひいては優秀な学生を当該短期大学が確保できるというメリットにつながる。